

福祉

SDGs

まちづくり

福祉×SDGs×まちづくり:
持続可能な地域福祉の実現のために
悠久会が取り組むこと



社会福祉法人 悠久会

〒855-0041 長崎県島原市宮の町249-1

電話番号: 0957-62-2961

ウェブ: yukukai.or.jp



社会福祉法人 悠久会は、
持続可能な開発目標「SDGs」を推進しています。



はじめに

福祉事業所での単独のサービス提供の時代は終わり「地域福祉の推進」「共生社会の実現」等の新たな福祉理念を実現するためのキーワードが生まれました。しかし、地域の現状を振り返ると少子高齢化、若年世代の流出を要因とする地域の活力の低下、様々な社会課題を抱えており福祉の理念を実現するにもこれらの課題は避けては通れません。

そこで我々、社会福祉法人悠久会は社会課題及び福祉課題を同時解決し、地域の持続可能性を高めるべく、福祉面のアプローチのみではなく、全世界の共通課題であるSDGsの視点と、まちづくりの視点を取り入れた「福祉×SDGs×まちづくり」と統合したアプローチに取り組み、課題解決に取り得むことにしました。

本冊子では悠久会が持続可能な地域福祉の実現のために取り組みたいことや取り組み事例をわかりやすく解説していきたいと思います。

もくじ

はじめに	03
悠久会SDGs宣言	04-05
悠久会YDGs	06-07
福祉とSDGs	08-09
悠久会が取り組む持続可能な福祉×まちづくり	10-11
代表事例:島原むすびす	12-13
SDGs×まちづくり	14-15
悠久会のSDGs事例	16-17
豊かさとは何か?ウェルビーイング	18
悠久会が目指す心豊かな社会	19

悠久会

SDGs

宣言



持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17ゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自体が取り組むユニバーサル (普遍的) なものであり、海外だけに留まらず日本としても積極的に取り組んでいます。

社会福祉法人悠久会は創設当初より「まちなか」で福祉事業を展開し、福祉課題と社会課題の双方の課題に着目し働きかけてきました。地域が継続不能な状態に陥ってしまうと、福祉だけではなく地域住民全体にも影響が及ぶ可能性もあります。「持続可能なまちづくり」を目指すことは良質な地域福祉サービスの提供だけではなく、地域コミュニティの活性化にも繋がります。また、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すSDGsと「地域共生社会」を目指す福祉は親和性が高く、福祉とSDGsを同時に推進することが福祉のまちづくりに必要な第一歩だと確信しています。

我々、社会福祉法人悠久会は、「福祉を取り巻く環境としてまちづくりがある。」福祉とまちづくり、双方を推進することを掲げ、SDGsに誠心誠意取り組むことを宣言いたします。

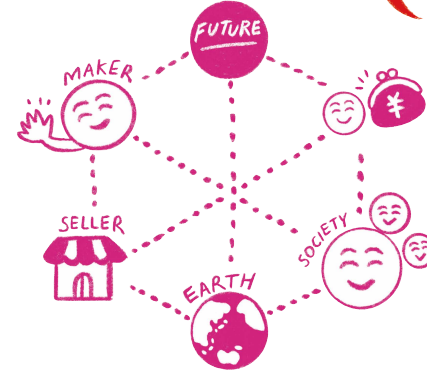
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsの達成に向けた悠久会の目標

未来志向で福祉ビジョンを描く

多様な福祉課題に対応するために、分野横断的に福祉ニーズを収集し、個別課題から社会課題まで幅広い領域に対応できる体制を目指します。持続可能な福祉のまちづくりを実現するべく未来志向で福祉ビジョンを描き実行します。



「六方よし」を実現できる地域活性化に貢献できる就労支援事業

地域の企業等とパートナーシップを構築し、地域経済の好循環及び地産地消の推進を行うことで地域経済の活性化を行い「買い手、売り手、世間、作り手、地球、未来」の六方よしの就労支援事業を実現します。

社会にインパクトを与える社会福祉法人を目指して



福祉や地域の魅力及び課題を積極的に情報発信し、地域住民の福祉等への参画意識を高めパートナーシップの構築を行います。潜在的な社会課題にも働きかけるソーシャルアクションを行い、まちにポジティブなインパクトを与える法人を目指します。

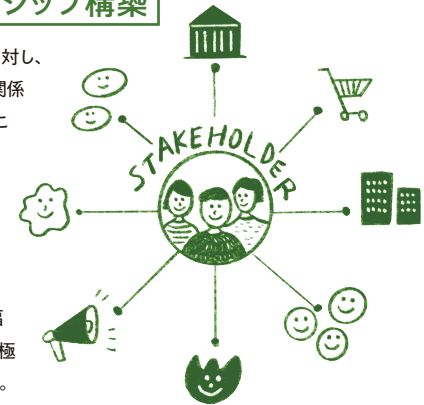
社会福祉法人のポテンシャルを活用した福祉課題及び社会課題の同時解決



「経済」「社会」「環境」のバランスの取れた持続可能なまちづくりのためにSDGsに関連する「食」「エネルギー」「雇用」「資源の活用」「環境への配慮」「福祉」等の影響力が大きい分野の解決に積極的に取り組みます。

福祉分野及び全ステークホルダーとのパートナーシップ構築

多様な福祉ニーズに対し、他の福祉事業所や関係機関等と連携することで重層的なセーフティネットを構築し、地域の福祉力を向上させます。また持続可能な地域の実現に向けて、福祉分野以外にも積極的な連携を行います。



変化に適応できる組織レジリエンスを高めた持続可能な法人の実現

多様な人材の確保・育成及び定着、サービスの質の向上及び生産性向上に取り組む組織体制の実現。中長期的な見据えた施設整備及び修繕計画等のソフト面・ハード面を充実させることで法人の持続可能性を高めます。



悠久会

YDGs

SDGsは17のゴール169のターゲットと範囲が広いので、全ての目標を漏れなく実施することは難しく、悠久会が取り組むことで社会的インパクトが大きいものから取り組むべきと考えました。つまり重要課題を特定し、やるべきことを焦点化する必要があります。また、SDGs特有の用語は理解されにくい面もあり、法人内で浸透しにくく理解・共感が得られにくい課題も抱えていました。

そこで、私たちは法人が取り組んでいる事業のうちSDGsに該当する項目をあてはめ、社会の重要課題とマッチした独自の目標の策定に取り掛かりました。悠久会独自の目標が必要だったのは、悠久会の職員全員がSDGsに取り組むにあたり、福祉の現場で身近に感じている課題とSDGsの目標を結び付けたものの方が理解を得られやすいと考えたからです。そうして完成したものがSDGsを推進するために悠久会の目標と設定した「YDGs」です。

YDGsは「あらゆる立場のすべての人々が心通い合う社会」を実現するために3つの柱「優しい心」「ゆとりある心」「喜びの心」と15の目標で構成されています。



優しい心

1 尊厳のある生活を実現しよう

すべての人々の個性や希望を尊重できる意思決定支援を行いそれぞれの立場に合ったサービスを提供しよう。



2 潜在能力を引き出そう

その人の持つ能力を引き出せる支援を行い、地域で自立した、その人らしい生活をおくれるよう働きかけよう。



3 最善の支援を志そう

幸せでより良い生活を実現するために信頼と納得に基づいた最善・最良の支援を目指そう。



4 笑顔あふれる生活を

すべての人々が安心して生活できるよう、立場の弱い人の権利を守る支援者であらう。



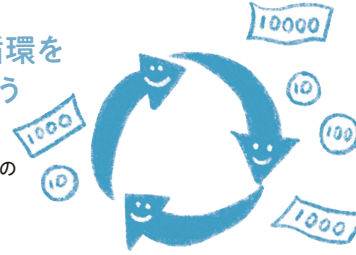
5 住み慣れたまちでの生活を守ろう

住み慣れた地域での生活を継続するために強くなやかなセーフティネットを構築しよう。



6 経済好循環を生み出そう

地域に根差した就労支援事業を展開し、地域経済の好循環拡大に貢献しよう。



8 信頼と納得に基づいた満足感を

最善・最良の支援を行いサービスの質の向上に努めることで信頼と納得を得ることにつなげよう。



10 シェアの文化を創出しよう

あらゆる人々のスキルや資源を最大限に活用するために信頼に基づくシェアの文化を広げよう。



7 個々が輝く組織であらう

法人の有するポテンシャルを最大限発揮できる組織を作り、共生社会の実現に向けて皆で協働しよう。



9 次へ踏み出す共感をみんなへ

オープンな組織風土を築き、地域からの共感を得よう努め、まちや福祉の未来を担う次世代にその魅力を伝えよう。



ゆとりある心



11 地域社会へ貢献しよう

社会福祉法人の果たすべき使命を自覚し、利用者支援、事業活動を通じて地域社会へ貢献しよう。

12 声なき声を吸い上げよう

誰一人取り残さない社会を実現するために、積極的に潜在的ニーズにもアウトリーチし福祉制度の狭間に陥った人達を支援しよう。



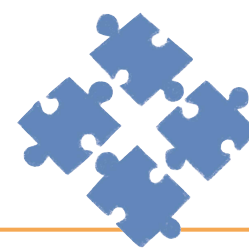
13 開かれた場所であらう

社会資源の一つとして、私たちが地域交流の場そのものとなり、法人が持つ機能を地域へ広く開放しよう。



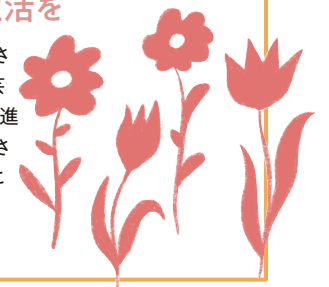
14 みんなで協力し合おう

福祉の垣根を越えた連携を率先して行い、ソーシャルワーク機能を発揮することで、地域生活支援ネットワークを強固にしよう。



15 彩り豊かな生活を

生活の質を向上させるために、文化・芸術スポーツ活動を推進し余暇活動を充実させることで、生活に彩りをもたらそう。



喜びの心

福祉とSDGs

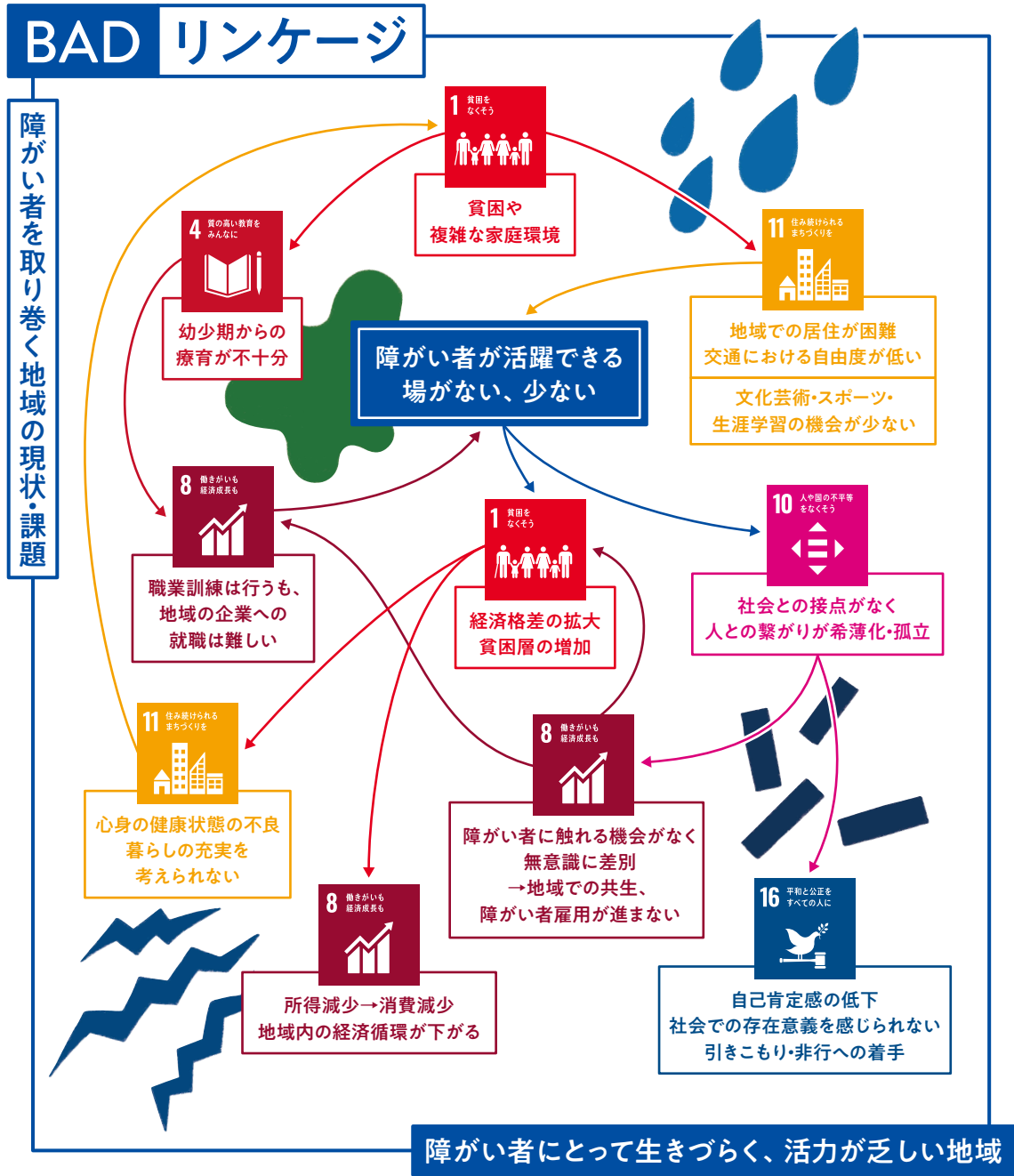
SDGsの目標は、それぞれが相互に関連し合っています。

例えば、障がいのある方の中には、家庭の経済的困窮をはじめとした様々な要因から、十分な療育や職業訓練の機会を受けられなかった結果、地域で働

ていくことができず、生活力が低い状態にある人がいます。活躍できる場が少なければ、人と接する機会が少なくなり、社会的孤立、心身の不安定に繋がります。地域全体でみれば、経済格差の拡大、貧困層の増加によって消費が減少し、地域の中でお金が回らず、活力が乏しくなり、負の連鎖に陥ります。(BADリンケージ)

一方で、福祉施設と医療機関、企業との連携体制が強化されるなど、障がいの療育や経済的な問題を解決するような仕組みができれば、彼らの孤立を防ぎ障がいをもっていても活躍できる場が広がり、生活力の向上にも繋がります。(GOODリンケージ)

全ての人々がいきいきと活躍でき、持続可能な地域経済・社会を目指して、悠久会は福祉とまちづくりの諸問題にアプローチしていきます。



悠久会が取り組む 持続可能な福祉 × まちづくり

GOODリンケージ
で示したような誰もが
豊かに暮らすことが
できる持続可能な地
域社会の実現を目指
して、具体的に悠久
会では以下の取り組
みを行っています。今
後も様々なアプロ
チで課題解決に努め
ていきます。



代表事例:

島原むすびす

島原むすびすは、「地域と地域、福祉と地域をむすぶ、人と人をむすぶ」ことをテーマとしたおむすびの専門店です。人口減少社会、地方創生が叫ばれる今、社会福祉法人として地域活性化の後押しができればとの想いから始めた事業です。これまで、地元食材の魅力を伝えるオリジナルメニューの企画・販売のほか、おむすびの包装素材や弁当の箱は紙製のものに変え、ドリンク提供時にはプラスチックを極力削減したバタフライカップを用いるなど、環境に配慮し、地域のSDGsアンテナショップとして運営を行ってまいりました。



島原むすびすが掲げる3つの目標

1 島原半島の新鮮な食材を生産する地元生産者とパートナーシップを組んで、地域の持続可能な食の在り方を模索し地方創生に貢献するとともに、島原むすびすならではの独創性にあふれた「おむすび」を提供したい。



2 SDGsが描く世界を実現させるためにも近江商人の思想「買い手よし」「売り手よし」「世間よし」の「三方よし」に加え「六方よし」として「作り手よし」「地球よし」「未来よし」の項目を加え、生産者・グローバル・将来世代を考慮した視点を持ったビジネスを実現したい。

3 地域を活性化させるために地元生産者にも利益が還元される、地産地消・地域経済循環率の向上につながるビジネスモデルを実現し、持続可能な地域の創造につなげたい。

コラボ商品の企画・開発と地域経済好循環

島原むすびすでは、地元産の食材を積極的に活用したメニューの開発に取り組んできました。地元企業である島原鉄道のカフェトレイン事業への参画、地域おこし協力隊である火山女子との協働により雲仙普賢岳の恵みをイメージし島原半島産の食材を用いた「火山弁当」を開発しました。※火山弁当は、第13回九州駅弁グランプリにおいて優秀賞を受賞しています。

また、島原市では映画やテレビ番組のロケを誘致し、まちを活性化させるロケツーリズムを推進しており、そのロケ弁当には火山弁当をリッチに仕上げた風光明媚火山弁当が提供されているなど地域活性化に寄与しています。



ディーセントワークの推進

島原むすびすは、就労継続支援A型と呼ばれる事業所で障がい者の方が働く訓練を行う場所です。メニューには、利用者さん発案のドリンクメニューも販売されており、利用者さんも職員も立場に関係なくアイデアを出し合える、誰もがやりがいを持って働ける職場(ディーセントワークの推進)を目指しています。

「島原むすびす」のような店舗型の事業所では、障がいを持たれた方が経済活動に参加し、地域の発展に貢献できます。自分の稼いだお金でおいしいものを食べに行ったり、好きなアーティストのコンサートに行ったり、旅行をしたりすることは、彼らが自身に対して誇りを持つことにも繋がるのではないのでしょうか。

地域における一事業者の責任をもって地域や環境に配慮し、社会と共生しながら営む就労支援のあり方で「地域と地域、福祉と地域をむすぶ、人と人をむすぶ」お店を目指し続けています。これからも、飲食店として美味しく楽しい時間を提供することはもちろんのこと、そのようなストーリーにも共感できるお店として地域に溶け込み、人々の暮らしを豊かにする存在でありたいです。

地域の企業と連携しながら島原の魅力をあらためてPRし、観光客はもとより、地元の方々にも魅力を再発見してほしいと考えています。

地域経済循環 漏れバケツ理論

島原むすびすは地域経済活性化を目的の一つとしています。例えば観光によって地域外からお金を獲得しても、食材等が地域外から仕入れたものだと地域経済の循環が起きず地域内にお金が残りません。

有名な「漏れバケツ理論」では地域をバケツ、水をお金に例えて説明しています。島原むすびすが地元食材を活用した商品売る＝地産地消を推進することで、お金(水)が地域内(バケツ)に留まり地域経済の活性化が期待できます。



SDGs × まちづくり

地産地消 (給食調理)

障がい者支援施設の給食調理においても食材のサプライチェーンの見直しを図っています。各施設の栄養士達で構成されるメンバーが自ら農家や直売所へ足を運び、新鮮な野菜を仕入れて給食にしています。季節によっては規格外野菜を使用するなど食品ロスにも貢献する取り組みを行っており、地元の農家さんとの密なやりとりをしながら進めています。

この取り組みは、令和4年度の地産地消コーディネーター派遣事業への参加から始まりました。地産地消コーディネーターの派遣事業は、学校等施設給食の現場にて地場産物の利用拡大や定着を目指す農林水産省が行っている事業です。コーディネーターさんを招きアドバイスをいただきながら、法人で利用する地元食材の使用率を56%から80%まで引き上げることができました。



現在、年に4回、四季折々で島原半島の食材100%メニュー(地産地消メニュー)の展開を始めています。農業が盛んな島原の土地で、旬の食材を使った季節を感じられる食事、普段とは異なる特別感のある食事を提供することによって、利用者さんの食欲が上がり、食事を楽しんでいる姿が印象的です。地産地消メニューの提供の際には、より利用者さんらに楽しんでもらおうと地元食材の紹介や、お品書きの掲示を行うなどの工夫を凝らした演出も行われています。

今後もこの取り組みを通して、地域全体において地域内経済循環を高めながら、利用者さん、職員にとって島原半島での暮らしの実感が得られる、自然と調和した彩りのある豊かな食生活の提供に努めていきます。



地方活性化の 取り組み

地域資源を活かしたイベント

2023年4月22日・23日の2日間にわたり、焚き火イベントを開催いたしました。会場は社会福祉法人悠久会が運営する山の上カフェGardenの森スペース。島原市中心市街地から車で10分もかからずアクセスできるアウトドアスペースです。

敷地内にファイヤーピットを新設したのをきっかけに、地域の皆様と共に楽しめる焚き火イベントを開催いたしました。イベントでは、就労支援事業所の島原むすびすや花ぞのパンが店出し「肉巻きおにぎり」や「まきまきパン」等のアウトドアならではのメニューを販売。地域の皆様に多数ご来場いただき収益に繋げることができました。

野外に設置されたステージでは、ベリーダンスや楽器演奏が披露され、銀の星学園の利用者と職員で結成した「トカトカどん」も参加し、地域の皆様に楽しんでもらえ交流できるイベントが開催できました。

「福祉×アウトドア」により、ウェルビーイングの向上といった障がいを持った利用者の方々へのポジティブな影響等の様々な発見もありました。今後も地域の皆様とともに共創して開催できる地域活性イベント等を行っていきたいと思います。



観光列車とのコラボ

「おむすびカフェ 島原むすびす」では、おむすびに使う海苔から塩にいたるまで島原半島産にこだわっています。地域との連携にも力を入れていて、地元の企業や高校、地域おこし協力隊の方達と連携し、地域と協働で商品開発を進めています。

地域おこし協力隊と協働開発した「火山弁当」は、現在もレギュラー商品として店頭に並ぶ他、島原鉄道の観光列車である「しまつカフェトレイン」にて提供させていただいております。

しまつカフェトレインは、諫早から島原間をゆっくりと走る列車に揺られながら、ご当地グルメを楽しみ、島原半島の自然や歴史を満喫できる鉄道の旅です。

島原むすびすの火山弁当は、肥沃な大地から恵みを受けた美味しい地元食材をつかったお弁当で利用客に大変人気です。長崎県内外から訪れた利用客の皆様に島原半島の魅力を発信するお手伝いをさせていただいております。

これらの活動は就労支援の観点から見ても、利用者の方に自分達の仕事が社会への繋がりや地域貢献していることを実感させ、金銭的報酬以外にも感謝と共感を得るという効果をもたらしています。



悠久会の

SDGs事例

BYE BYE Plastics! プロジェクト

2020年より政府が環境問題解決の施策の一つとしてレジ袋削減の動きが本格化しました。この流れに合わせ、私たちは使い捨てによるゴミ問題解決への取り組みとして障がい者アートを取り入れたデザインと、サイズアウトした子供服を再利用した素材を取り入れたオリジナル買い物バックを制作し販売。バック制作に参加いただいた関係者には、海岸清掃にも参加していただき海ごみに関する知識を深めてもらう活動も実施しました。



生ごみから堆肥づくり

当法人の施設利用者に食事を提供した際に出る「生ごみ」を極力無くしたいという思いから始まった業務用生ごみ処理機（バイオクリーン）導入プロジェクト。2020年に銀の星学園の敷地内に設置し、生ごみ処理機の運用を行っています。この機械は、生ごみを1日に15kg処理し堆肥として利用することができます。ごみの焼却量を減らすことができ、処理後に出来上がった堆肥は近隣の町内会の皆様に無償で配布を行っています。

湧水を 地域交流の場に

悠久会の運営する障がい者支援施設 若菜寮の施設玄関前に湧水・池を設置し地域の皆様の交流の場として開放しています。島原は、市内各所で湧き水が見られる湧水群で知られ、古くから水の都と呼ばれています。生活のための水汲み場として、ときには子ども達の水遊びの場として沢山の方が水場に訪れていただいています。いつでも皆様が安全にご利用いただけるよう悠久会では定期的に水質検査を実施しています。



当法人では、利用者さんと職員で駅前や、海の日に海岸でゴミを拾う「ブルーサンタ」活動などのビーチクリーン活動を実施しています。時には当法人が運営する「いろは保育園」の子供たちも参加し、タバコの吸い殻やペットボトルなどのごみを回収しています。10年以上も前から実施されている活動で、利用者の方の歩行訓練のついでに社会奉仕活動の一環として始まったのがきっかけ。今では、利用者さんと地域との交流機会としても大切な活動となっています。

ビーチクリーン活動



気候変動に 対する 取り組み

2013年4月に銀の星学園の屋根部分に太陽光パネルを設置いたしました。現在、売電は行っておらず発電された電力については法人内で自家消費しています。2021年には、BCP対策（非常・被災時の持続可能な支援提供の為）として、蓄電池を新たに設置。蓄電池設備の導入により、非常時・被災時には72時間以上の電力供給が可能です。温室効果ガスの削減のために再生可能エネルギーの活用を行うことで、社会の持続的発展への貢献につながります。



SDGsワークショップ

2021年、清掃活動によって集まったペットボトルの蓋を利用し、SDGsアートワークショップをエコ・パーク論所原で開催された「雲仙天国」のイベントにて行いました。ペットボトルの蓋を木の葉に見立て、色とりどりのキャップを貼り付けていく来場者が気軽に参加できるワークショップです。作業中は、海ごみをはじめとした環境問題を話題に楽しくおしゃべり。利用者や来場した子供たちも参加し、当法人のSDGsの取り組みを知ってもらうきっかけになりました。



豊かさとは何か？



本冊子の締めくくりとして、YDGsの目標15「彩り豊かな生活を」テーマに豊かさとは何か？についてまとめたいと思います。

豊かな生活とは？

「豊かな生活」と聞くと、経済的に豊かな生活を思い浮かべることでしよう。しかし、SDGsは経済面だけではなく「経済・社会・環境のバランスの取れた発展」を目指しています。そもそも、SDGsの成立背景は経済成長により、生活の利便性の向上にはつながったものの、格差の拡大により社会情勢の不安定が増し、環境破壊や地球温暖化等を原因とする自然災害が増加したことで、全世界が社会面・環境面の改善を求めたことで生まれました。

悠久会では「豊かな生活」を再定義することで、生活の質(QOL)及び福祉サービスの質を向上するためのヒントとしたいと思います。

Well-beingとBLI (Better Life Index)

近年、心身及び社会的にも満たされた幸福な状態を示す「Well-being(ウェルビーイング)」が注目されています。SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を(Good Health and Well-Being)」にも登場するように豊かさを示す要素の一つです。そして、GDP以外にも生活の質を計測できる「より良い暮らし指標(BLI)」があります。BLI(Better Life

Index)では、住宅、所得、雇用、社会的つながり、教育、環境、市民参画、健康、主観的幸福、安全、ワーク

ライフバランスの11分野を評価し、経済的豊かさ以外の指標でも、生活の豊かさを多面的に評価ができます。

共生社会実現の土台となる豊かな社会関係資本

地域福祉の推進をする場合、衣食住の提供だけではなく、地域とのつながりやコミュニティ参画を増やす取り組みが重要です。BLIでも「社会的つながり」が評価項目の一つとなっています。地域住民の相互の関わりが活発な地域では、社会関係資本(ソーシャルキャピタル)が豊かとされ、自発的な協力や助け合いが生まれやすく、共生社会の実現に近づくことでしよう。



Better Life Index



心豊かな生活を実現するために大切なこと

悠久会のビジョンYDGsでは「あらゆる立場のすべての人々の心が通い合う社会の実現」を目指しています。「心」に着目した理由は地域福祉の推進が、立地等の物理的分断を解消しつつも、社会的分断などの社会課題は未だ解決していないからです。制度論及びハード論のみの視点では、ウェルビーイングの充実には不十分で、BLI(Better Life Index)の指標「社会とのつながり」「市民参画」等の地域との関わりも大切です。心豊かな生活の実現にはハード論のみではなくハート論も語っていくべきです。

誰一人取り残さない社会を目指して

福祉理念の一つ「社会的包摂」は、皆が社会とのつながりや役割を持ち活躍できる社会。「地域に自分の居場所がある社会」を目指しています。これはSDGsの理念「誰一人取り残さない社会」と共通しています。

OECDによる2020年の調査では、日本は「所得と富」はOECD内では平均的ですが、大項目「社会とのつながり」内の「社会的交流」「社会的支援の欠乏(困った時に頼る人がいない)」では低水準でした。悠久会は社会課題の一つ、社会的孤立の解消のために、人や社会とのつながりの充実(社会関係資本)に取り組み、利用者と地域住民のウェルビーイングを高めます。

悠久会が目指す社会～福祉とまちづくり～

悠久会がSDGsに取り組む理由は、福祉関係者のみで福祉課題だけに取り組むのではなく、社会課題と福祉課題の同時解決を行うために、福祉以外の方々とも積極的に協働するべきだと考えているからです。

その理由として、他分野の方々と協働することで幅広い解決策が生まれ、副次的効果として地域とのつながりも深まります。福祉と地域の垣根がない社会、それが悠久会が目指す世界でもあり、主要テーマである「福祉とまちづくり」の活動です。

我々が掲げるビジョン「あらゆる立場のすべての人々の心が通い合う社会」が実現できたならば、地域全体のウェルビーイングが向上し、心豊かなライフスタイルが実現することでしよう。



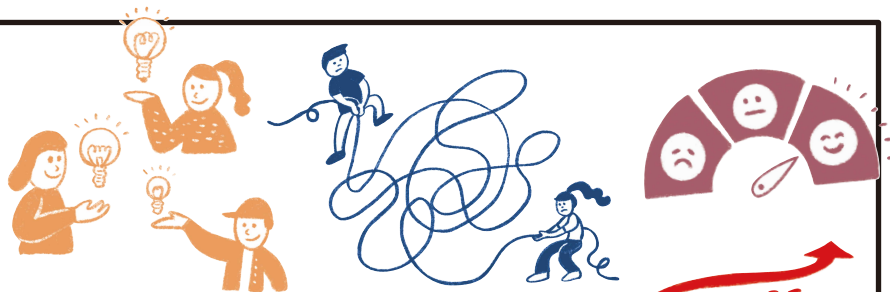
悠久会が目指す心豊かな社会

福祉

SDGs

まちづくり

福祉×SDGs×まちづくり:
持続可能な地域福祉の実現のために
悠久会が取り組むこと



はじめに

福祉事業所での単独のサービス提供の時代は終わり「地域福祉の推進」「共生社会の実現」等の新たな福祉理念を実現するためのキーワードが生まれました。しかし、地域の現状を振り返ると少子高齢化、若年世代の流出を要因とする地域の活力の低下、様々な社会課題を抱えており福祉の理念を実現するにもこれらの課題は避けては通れません。

そこで我々、社会福祉法人悠久会は社会課題及び福祉課題を同時解決し、地域の持続可能性を高めるべく、福祉面のアプローチのみではなく、全世界の共通課題であるSDGsの視点と、まちづくりの視点を取り入れた「福祉×SDGs×まちづくり」と統合したアプローチに取り組み、課題解決に取り得むことにしました。

本冊子では悠久会が持続可能な地域福祉の実現のために取り組みたいことや取り組み事例をわかりやすく解説していきたいと思います。

もくじ

はじめに	03
悠久会SDGs宣言	04-05
悠久会YDGs	06-07
福祉とSDGs	08-09
悠久会が取り組む持続可能な福祉×まちづくり	10-11
代表事例:島原むすびす	12-13
SDGs×まちづくり	14-15
悠久会のSDGs事例	16-17
豊かさとは何か?ウェルビーイング	18
悠久会が目指す心豊かな社会	19

悠久会

SDGs

宣言



持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17ゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自体が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、海外だけに留まらず日本としても積極的に取り組んでいます。

社会福祉法人悠久会は創設当初より「まちなか」で福祉事業を展開し、福祉課題と社会課題の双方の課題に着目し働きかけてきました。地域が継続不能な状態に陥ってしまうと、福祉だけではなく地域住民全体にも影響が及ぶ可能性もあります。“持続可能なまちづくり”を目指すことは良質な地域福祉サービスの提供だけではなく、地域コミュニティの活性化にも繋がります。また、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すSDGsと「地域共生社会」を目指す福祉は親和性が高く、福祉とSDGsを同時に推進することが福祉のまちづくりに必要な第一歩だと確信しています。

我々、社会福祉法人悠久会は、「福祉を取り巻く環境としてまちづくりがある。」福祉とまちづくり、双方を推進することを掲げ、SDGsに誠心誠意取り組むことを宣言いたします。

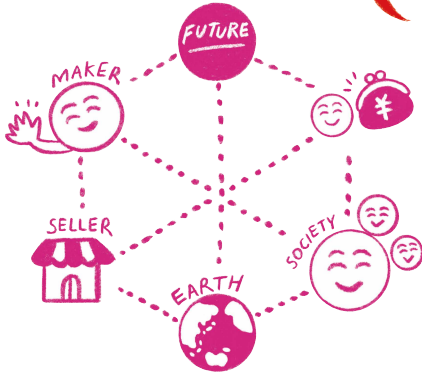
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsの 達成に向けた 悠久会の目標

未来志向で 福祉ビジョンを描く

多様な福祉課題に対応するために、分野横断的に福祉ニーズを収集し、個別課題から社会課題まで幅広い領域に対応できる体制を目指します。持続可能な福祉のまちづくりを実現するべく未来志向で福祉ビジョンを描き実行します。



地域の企業等とパートナーシップを構築し、地域経済の好循環及び地産地消の推進を行うことで地域経済の活性化を行い「買い手、売り手、世間、作り手、地球、未来」の六方よしの就労支援事業を実現します。

「六方よし」を実現できる
地域活性化に貢献できる
就労支援事業

社会に インパクトを与える 社会福祉法人を 目指して



福祉や地域の魅力及び課題を積極的に情報発信し、地域住民の福祉等への参画意識を高めパートナーシップの構築を行います。潜在的な社会課題にも働きかけるソーシャルアクションを行い、まちにポジティブなインパクトを与える法人を目指します。

社会福祉法人の ポテンシャルを活用した 福祉課題及び社会課題の 同時解決



「経済」「社会」「環境」のバランスの取れた持続可能なまちづくりのためにSDGsに関連する「食」「エネルギー」「雇用」「資源の活用」「環境への配慮」「福祉」等の影響力が大きい分野の解決に積極的に取り組みます。

福祉分野及び全ステークホルダーとの パートナーシップ構築

多様な福祉ニーズに対し、他の福祉事業所や関係機関等と連携することで重層的なセーフティーネットを構築し、地域の福祉力を向上させます。また持続可能な地域の実現に向けて、福祉分野以外にも積極的な連携を行います。



変化に適応できる組織レジリエンスを 高めた持続可能な法人の実現

多様な人材の確保・育成及び定着、サービスの質の向上及び生産性向上に取り組む組織体制の実現。中長期を見据えた施設整備及び修繕計画等のソフト面・ハード面を充実させることで法人の持続可能性を高めます。



悠久会

YDGs

SDGsは17のゴール169のターゲットと範囲が広いので、全ての目標を漏れなく実施することは難しく、悠久会が取り組むことで社会的インパクトが大きいものから取り組むべきと考えました。つまり重要課題を特定し、やるべきことを焦点化する必要があります。また、SDGs特有の用語は理解されにくい面もあり、法人内で浸透しにくく理解・共感が得られにくい課題も抱えていました。

そこで、私たちは法人が取り組んでいる事業のうちSDGsに該当する項目をあてはめ、社会の重要課題とマッチした独自の目標の策定に取り掛かりました。悠久会独自の目標が必要だったのは、悠久会の職員全員がSDGsに取り組むにあたり、福祉の現場で身近に感じている課題とSDGsの目標を結び付けたものの方が理解を得られやすいと考えたからです。そうして完成したものがSDGsを推進するために悠久会の目標と設定した「YDGs」です。

YDGsは「あらゆる立場のすべての人々が心通い合う社会」を実現するために3つの柱「優しい心」「ゆとりある心」「喜びの心」と15の目標で構成されています。



優しい心

1 尊厳のある生活を実現しよう

すべての人々の個性や希望を尊重できる意思決定支援を行いそれぞれの立場にたったサービスを提供しよう。



2 潜在能力を引き出そう

その人の持つ能力を引き出せる支援を行い、地域で自立した、その人らしい生活をおくれるよう働きかけよう。



3 最善の支援を志そう

幸せでより良き生活を実現するために信頼と納得に基づいた最善・最良の支援を目指そう。



4 笑顔あふれる生活を

すべての人々が安心して生活できるよう、立場の弱い人の権利を守る支援者であらう。



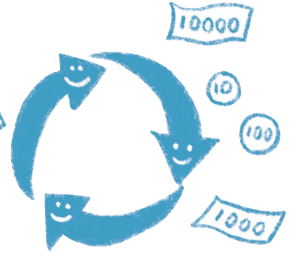
5 住み慣れたまちでの生活を守ろう

住み慣れた地域での生活を継続するために強くなやかなセーフティネットを構築しよう。



6 経済好循環を生み出そう

地域に根差した就労支援事業を展開し、地域経済の好循環拡大に貢献しよう。



7 個々が輝く組織であらう

法人の有するポテンシャルを最大限発揮できる組織を作り、共生社会の実現に向けて皆で協働しよう。



8 信頼と納得に基づいた満足感を

最善・最良の支援を行いサービスの質の向上に努めることで信頼と納得を得ることにつなげよう。

9 次へ踏み出す共感をみんなへ

オープンな組織風土を築き、地域からの共感を得よう努め、まちや福祉の未来を担う次世代にその魅力を伝えよう。

10 シェアの文化を創出しよう

あらゆる人々のスキルや資源を最大限に活用するために信頼に基づくシェアの文化を広げよう。



11 地域社会へ貢献しよう

社会福祉法人の果たすべき使命を自覚し、利用者支援、事業活動を通じて地域社会へ貢献しよう。

12 声なき声を吸い上げよう

誰一人取り残さない社会を実現するために、積極的に潜在的ニーズにもアウトリーチし福祉制度の狭間に陥った人達を支援しよう。



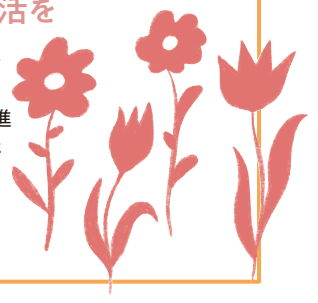
13 開かれた場所であらう

社会資源の一つとして、私たちが地域交流の場そのものとなり、法人が持つ機能を地域へ広く開放しよう。



15 彩り豊かな生活を

生活の質を向上させるために、文化・芸術スポーツ活動を推進し余暇活動を充実させることで、生活に彩りをもたらそう。



14 みんなで協力し合おう

福祉の垣根を越えた連携を率先して行い、ソーシャルワーク機能を発揮することで、地域生活支援ネットワークを強固にしよう。



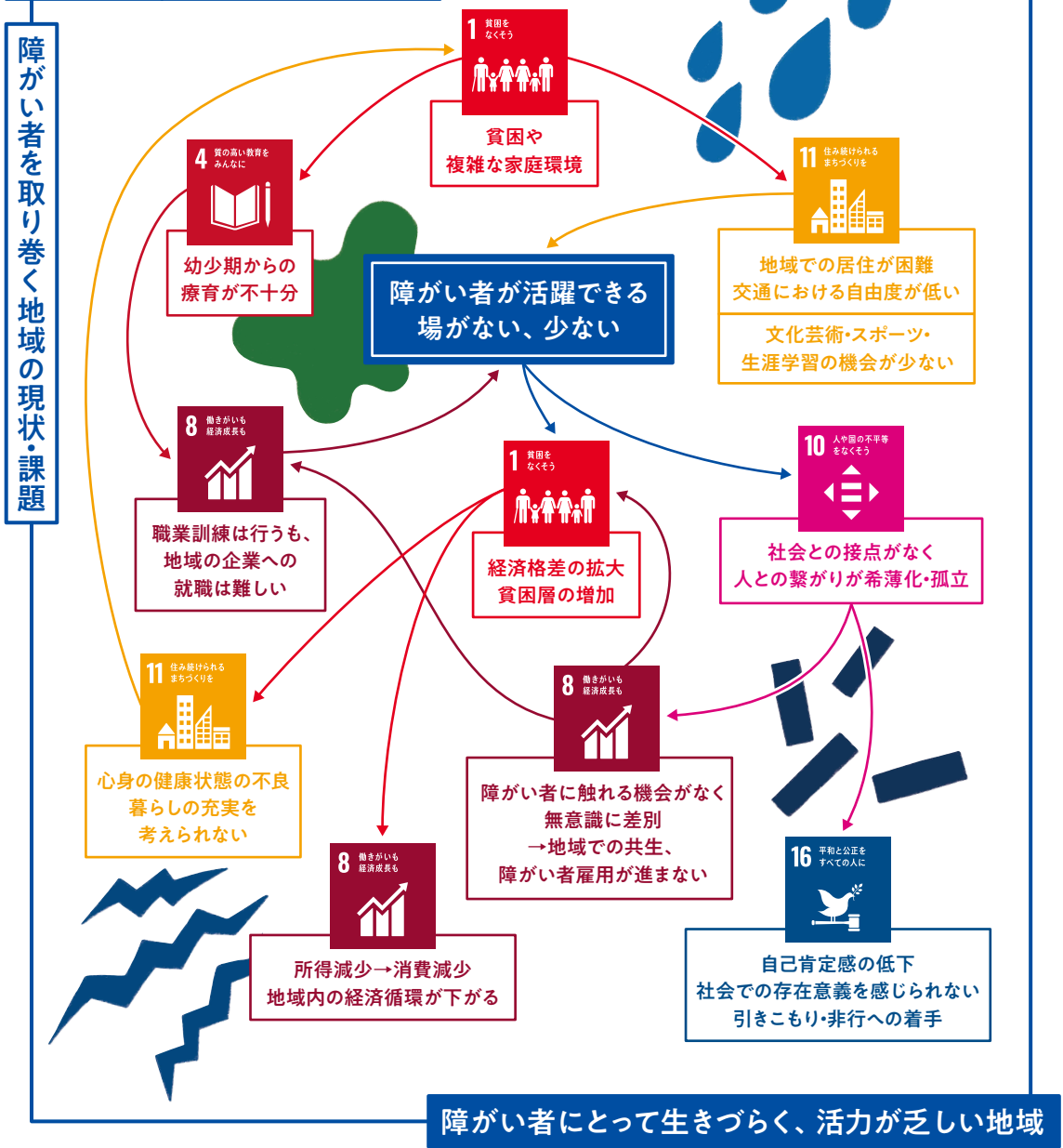
福祉と

SDGs

SDGsの目標は、それぞれが相互に関連し合っています。

例えば、障がいのある方の中には、家庭の経済的困窮をはじめとした様々な要因から、十分な療育や職業訓練の機会を受けられなかった結果、地域で働

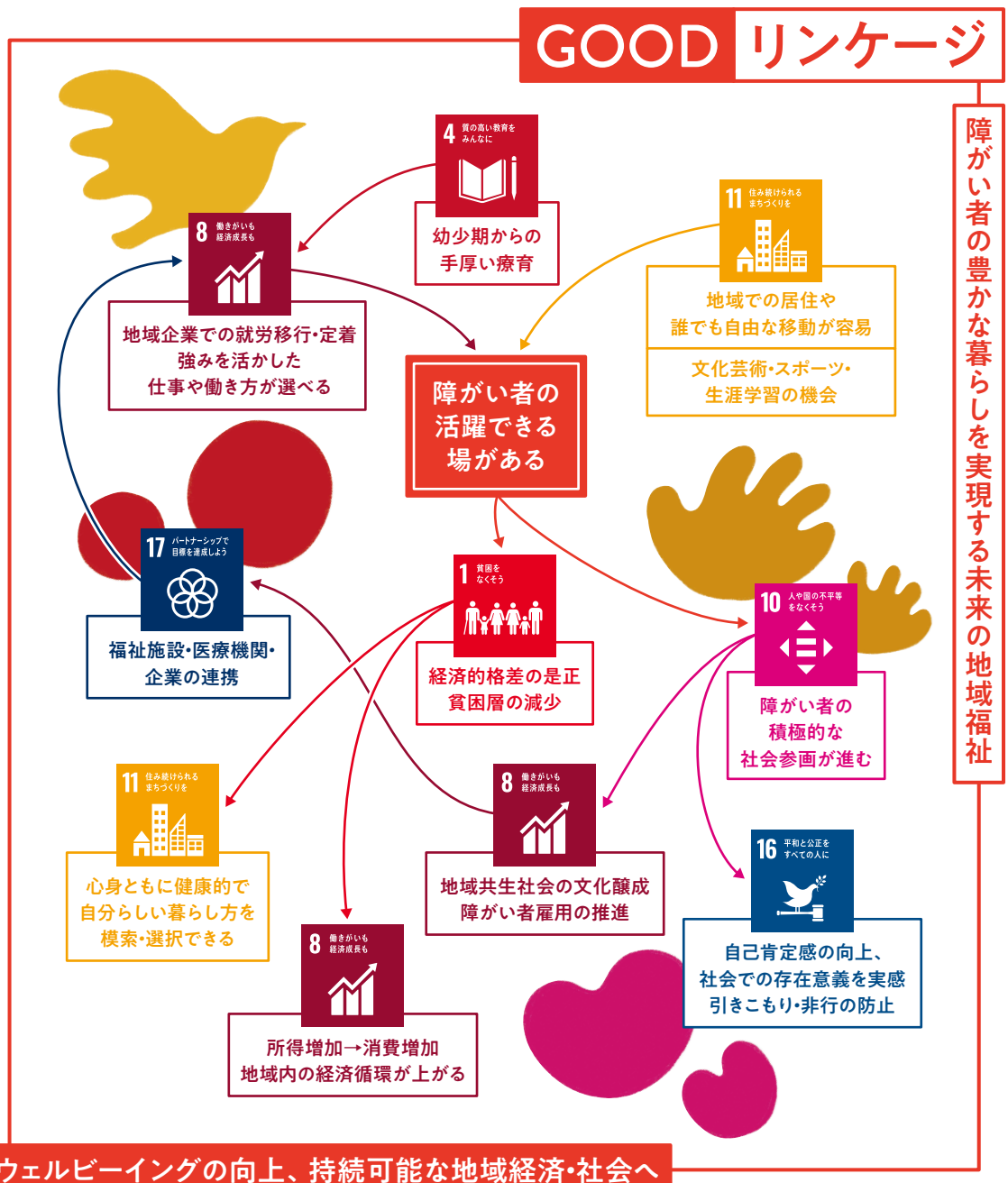
BAD リンケージ



ていくことができず、生活力が低い状態にある人がいます。活躍できる場が少なければ、人と接する機会が少なくなり、社会的孤立、心身の不安定に繋がります。地域全体でみれば、経済格差の拡大、貧困層の増加によって消費が減少し、地域の中でお金が回らず、活力が乏しくなり、負の連鎖に陥ります。(BADリンケージ)

一方で、福祉施設と医療機関、企業との連携体制が強化されるなど、障がい者の療育や経済的な問題を解決するような仕組みができれば、彼らの孤立を防ぎ障がいをもっていても活躍できる場が広がり、生活力の向上にも繋がります。(GOODリンケージ)

全ての人々がいきいきと活躍でき、持続可能な地域経済・社会を目指して、悠久会は福祉とまちづくりの諸問題にアプローチしていきます。



悠久会が取り組む

持続可能な福祉

× まちづくり

GOODリンケージ
で示したような誰もが豊かに暮らすことができる持続可能な地域社会の実現を目指して、具体的に悠久会では以下の取り組みを行っています。今後も様々なアプローチで課題解決に努めていきます。





代表事例：

島原むすびす

島原むすびすは、「地域と地域、福祉と地域をむすぶ、人と人をむすぶ」ことをテーマとしたおむすびの専門店です。人口減少社会、地方創生が叫ばれる今、社会福祉法人として地域活性化の後押しができればとの想いから始めた事業です。これまで、地元食材の魅力を伝えるオリジナルメニューの企画・販売のほか、おむすびの包装素材や弁当の箱は紙製のものに変え、ドリンク提供時にはプラスチックを極力削減したバタフライカップを用いるなど、環境に配慮し、地域のSDGsアンテナショップとして運営を行ってまいりました。



島原むすびすが掲げる3つの目標

① 島原半島の新鮮な食材を生産する地元生産者とパートナーシップを組んで、地域の持続可能な食の在り方を模索し地方創生に貢献するとともに、島原むすびすならではの独創性にあふれた「おむすび」を提供したい。



② SDGsが描く世界を実現させるためにも近江商人の思想「買い手よし」「売り手よし」「世間よし」の「三方よし」に加え「六方よし」として「作り手よし」「地球よし」「未来よし」の項目を加え、生産者・グローバル・将来世代を考慮した視点を持ったビジネスを実現したい。

③ 地域を活性化させるために地元生産者にも利益が還元される、地産地消・地域経済循環率の向上につながるビジネスモデルを実現し、持続可能な地域の創造につなげたい。

コラボ商品の企画・開発と地域経済好循環

島原むすびずでは、地元産の食材を積極的に活用したメニューの開発に取り組んできました。地元企業である島原鉄道のカフェトレイン事業への参画、地域おこし協力隊である火山女子との協働により雲仙普賢岳の恵みをイメージし島原半島産の食材を用いた「火山弁当」を開発しました。※火山弁当は、第13回九州駅弁グランプリにおいて優秀賞を受賞しています。

また、島原市では映画やテレビ番組のロケを誘致し、まちを活性化させるロケツーリズムを推進しており、そのロケ弁当には火山弁当をリッチに仕上げた風光明媚火山弁当が提供されているなど地域活性化に寄与しています。



ディーセントワークの推進

島原むすびずは、就労継続支援A型と呼ばれる事業所で障がい者の方が働く訓練を行う場所です。メニューには、利用者さん発案のドリンクメニューも販売されており、利用者さんも職員も立場に関係なくアイデアを出し合える、誰もがやりがいを持って働ける職場(ディーセントワークの推進)を目指しています。

「島原むすびず」のような店舗型の事業所では、障がいを持たれた方が経済活動に参加し、地域の発展に貢献できます。自分の稼いだお金でおいしいものを食べに行ったり、好きなアーティストのコンサートに行ったり、旅行をしたりすることは、彼らが自身に対して誇りを持つことにも繋がるのではないのでしょうか。

地域における一事業者の責任をもって地域や環境に配慮し、社会と共生しながら営む就労支援のあり方で「地域と地域、福祉と地域をむすぶ、人と人をむすぶ」お店を目指し続けています。これからも、飲食店として美味しく楽しい時間を提供することはもちろんのこと、そのようなストーリーにも共感できるお店として地域に溶け込み、人々の暮らしを豊かにする存在でありたいです。

地域の企業と連携しながら島原の魅力をあらためてPRし、観光客はもとより、地元の方々にも魅力を再発見してほしいと考えています。

地域経済循環 漏れバケツ理論

島原むすびずは地域経済活性化を目的の一つとしています。例えば観光によって地域外からお金を獲得しても、食材等が地域外から仕入れたものだと地域経済の循環が起きず地域内にお金が残りません。

有名な「漏れバケツ理論」では地域をバケツ、水をお金に例えて説明しています。島原むすびずが地元食材を活用した商品を売る=地産地消を推進することで、お金(水)が地域内(バケツ)に留まり地域経済の活性化が期待できます。





SDGs ×

まちづくり

地産地消

(給食調理)

障がい者支援施設の給食調理においても食材のサプライチェーンの見直しを図っています。各施設の栄養士達で構成されるメンバーが自ら農家や直売所へ足を運び、新鮮な野菜を仕入れて給食にしています。季節によっては規格外野菜を使用するなど食品ロスにも貢献する取り組みを行っており、地元の農家さんとの密なやりとりをしながら進めています。

この取り組みは、令和4年度の地産地消コーディネーター派遣事業への参加から始まりました。地産地消コーディネーターの派遣事業は、学校等施設給食の現場にて地場産物の利用拡大や定着を目指す農林水産省が行っている事業です。コーディネーターさんを招きアドバイスをいただきながら、法人で利用する地元食材の使用率を56%から80%まで引き上げることができました。



現在、年に4回、四季折々に島原半島の食材100%メニュー(地産地消メニュー)の展開を始めています。農業が盛んな島原の土地で、旬の食材を使った季節を感じられる食事、普段とは異なる特別感のある食事を提供することによって、利用者さんの食欲が上がり、食事を楽しんでいる姿が印象的です。地産地消メニューの提供の際には、より利用者さんらに楽しんでもらうと地元食材の紹介や、お品書きの掲示を行うなどの工夫を凝らした演出も行われています。

今後もこの取り組みを通して、地域全体において地域内経済循環を高めながら、利用者さん、職員にとって島原半島での暮らしの実感が得られる、自然と調和した彩りのある豊かな食生活の提供に努めていきます。

地方活性化の 取り組み

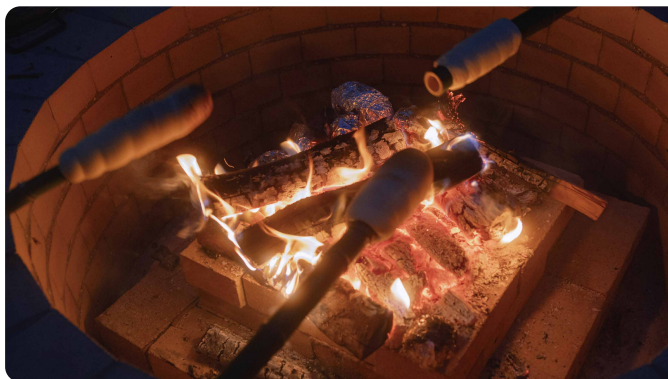
地域資源を活かしたイベント

2023年4月22日・23日の2日間にわたり、焚き火イベントを開催いたしました。会場は社会福祉法人悠久会が運営する山の上カフェGardenの森スペース。島原市中心市街地から車で10分もかからずアクセスできるアウトドアスペースです。

敷地内にファイヤーピットを新設したのをきっかけに、地域の皆様と共に楽しめる焚き火イベントを開催いたしました。イベントでは、就労支援事業所の島原むすびすや花ぞのパンが outlets 「肉巻きおにぎり」や「まきまきパン」等のアウトドアならではのメニューを販売。地域の皆様に多数ご来場いただき収益に繋げることができました。

野外に設置されたステージでは、ベリーダンスや楽器演奏が披露され、銀の星学園の利用者と職員で結成した「トカトカどん」も参加し、地域の皆様に楽しんでもらえ交流できるイベントが開催できました。

「福祉×アウトドア」により、ウェルビーイングの向上といった障がいを持った利用者の方々へのポジティブな影響等の様々な発見もありました。今後も地域の皆様とともに共創して開催できる地域活性イベント等を行っていきたいと思います。



観光列車とのコラボ

「おむすびカフェ 島原むすびす」では、おむすびに使う海苔から塩にいたるまで島原半島産にこだわっています。地域との連携にも力を入れていて、地元の企業や高校、地域おこし協力隊の方達と連携し、地域と協働で商品開発を進めています。

地域おこし協力隊と協働開発した「火山弁当」は、現在もレギュラー商品として店頭に並ぶ他、島原鉄道の観光列車である「しまつカフェトレイン」にて提供させていただいております。

しまつカフェトレインは、諫早から島原間をゆっくりと走る列車に揺られながら、ご当地グルメを楽しみ、島原半島の自然や歴史を満喫できる鉄道の旅です。

島原むすびすの火山弁当は、肥沃な大地から恵みを受けた美味しい地元食材をつかったお弁当で利用客に大変人気です。長崎県内外から訪れた利用客の皆様にも島原半島の魅力を発信するお手伝いをさせていただいております。

これらの活動は就労支援の観点から見ても、利用者の方に自分達の仕事が社会への繋がりや地域貢献していることを実感させ、金銭的報酬以外にも感謝と共感を得るという効果をもたらしています。

悠久会の

SDGs事例

BYE BYE Plastics! プロジェクト

2020年より政府が環境問題解決の施策の一つとしてレジ袋削減の動きが本格化しました。この流れに合わせ、私たちは使い捨てによるごみ問題解決への取り組みとして障がい者アートを取り入れたデザインと、サイズアウトした子供服を再利用した素材を取り入れたオリジナル買い物バックを制作し販売。バック制作に参加いただいた関係者には、海岸清掃にも参加していただき海ごみに関する知識を深めてもらう活動も実施しました。



生ごみから堆肥づくり

当法人の施設利用者に食事を提供した際に出る「生ごみ」を極力無くしたいという思いから始まった業務用生ごみ処理機(バイオクリーン)導入プロジェクト。2020年に銀の星学園の敷地内に設置し、生ごみ処理機の運用を行っています。この機械は、生ごみを1日に15kg処理し堆肥として利用することができます。ごみの焼却量を減らすことができ、処理後に出来上がった堆肥は近隣の町内会の皆様に無償で配布を行っています。



湧水を 地域交流の場に

悠久会の運営する障がい者支援施設 若菜寮の施設玄関前に湧水・池を設置し地域の皆様の交流の場として開放しています。島原は、市内各所で湧き水が見られる湧水群で知られ、古くから水の都と呼ばれています。生活のための水汲み場として、ときには子ども達の水遊びの場として沢山の方が水場に訪れていただいています。いつでも皆様が安全にご利用いただけるよう悠久会では定期的に水質検査を実施しています。



ビーチクリーン活動



当法人では、利用者さんと職員で駅前や、海の日に海岸でゴミを拾う「ブルーサンタ」活動などのビーチクリーン活動を実施しています。時には当法人が運営する「いろは保育園」の子供たちも参加し、タバコの吸い殻やペットボトルなどのごみを回収しています。10年以上も前から実施されている活動で、利用者の方の歩行訓練のついでに社会奉仕活動の一環として始まったのがきっかけ。今では、利用者さんと地域との交流機会としても大切な活動となっています。

気候変動に 対する取り組み

2013年4月に銀の星学園の屋根部分に太陽光パネルを設置いたしました。現在、売電は行っておりませんが発電された電力については法人内で自家消費しています。2021年には、BCP対策(非常・被災時の持続可能な支援提供の為)として、蓄電池を新たに設置。蓄電池設備の導入により、非常時・被災時には72時間以上の電力供給が可能です。温室効果ガスの削減のために再生可能エネルギーの活用を行うことで、社会の持続的発展への貢献につながります。



SDGsワークショップ

2021年、清掃活動によって集まったペットボトルの蓋を利用し、SDGsアートワークショップをエコ・パーク論所原で開催された「雲仙天国」のイベントにて行いました。ペットボトルの蓋を木の葉に見立て、色とりどりのキャップを貼り付けていく来場者が気軽に参加できるワークショップです。作業中は、海ごみをはじめとした環境問題を話題に楽しくおしゃべり。利用者や来場した子供たちも参加し、当法人のSDGsの取り組みを知ってもらうきっかけになりました。



ウェルビーイング

豊かさとは何か？



本冊子の締めくくりとして、YDGsの目標15「彩り豊かな生活を」テーマに豊かさとは何か？についてまとめたと思います。

豊かな生活とは？

「豊かな生活」と聞くと、経済的に豊かな生活を思い浮かべることでしよう。しかし、SDGsは経済面だけではなく「経済・社会・環境のバランスの取れた発展」を目指しています。そもそも、SDGsの成立背景は経済成長により、生活の利便性の向上にはつながったものの、格差の拡大により社会情勢の不安定が増し、環境破壊や地球温暖化等を原因とする自然災害が増加したことで、全世界が社会面・環境面の改善を求めたことで生まれました。

悠久会では「豊かな生活」を再定義することで、生活の質(QOL)及び福祉サービスの質を向上するためのヒントとしたいと思います。

Well-beingとBLI (Better Life Index)

近年、心身及び社会的にも満たされた幸福な状態を示す「Well-being(ウェルビーイング)」が注目されています。SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を(Good Health and Well-Being)」にも登場するように豊かさを示す要素の一つです。

そして、GDP以外にも生活の質を計測できる「より良い暮らし指標(BLI)」があります。BLI(Better Life Index)では、住宅、所得、雇用、社会的つながり、教育、環境、市民参画、健康、主観的幸福、安全、ワークライフバランスの11分野を評価し、経済的豊かさ以外の指標でも、生活の豊かさを多面的に評価ができます。

共生社会実現の土台となる豊かな社会関係資本

地域福祉の推進をする場合、衣食住の提供だけではなく、地域とのつながりやコミュニティ参画を増やす取り組みが重要です。BLIでも「社会的つながり」が評価項目の一つとなっています。地域住民の相互の関わりが活発な地域では、社会関係資本(ソーシャルキャピタル)が豊かとされ、自発的な協力や助け合いが生まれやすく、共生社会の実現に近づくことでしょう。

What is Well-Being?



Better
Life
Index



心豊かな生活を実現するために大切なこと

悠久会のビジョンYDGsでは「あらゆる立場のすべての人々の心が通い合う社会の実現」を目指しています。「心」に着目した理由は地域福祉の推進が、立地等の物理的分断を解消しつつも、社会的分断などの社会課題は未だ解決していないからです。制度論及びハード論のみの視点では、ウェルビーイングの充実には不十分で、BLI (Better Life Index) の指標「社会とのつながり」「市民参画」等の地域との関わりも大切です。心豊かな生活の実現にはハード論のみではなくソフト論も語っていくべきです。



誰一人取り残さない社会を目指して

福祉理念の一つ「社会的包摂」は、皆が社会とのつながりや役割を持ち活躍できる社会。「地域に自分の居場所がある社会」を目指しています。これはSDGsの理念「誰一人取り残さない社会」と共通しています。

OECDによる2020年の調査では、日本は「所得と富」はOECD内では平均的ですが、大項目「社会とのつながり」内の「社会的交流」「社会的支援の欠乏(困った時に頼る人がいない)」では低水準でした。悠久会は社会課題の一つ、社会的孤立の解消のために、人や社会とのつながりの充実(社会関係資本)に取り組み、利用者と地域住民のウェルビーイングを高めます。

悠久会が目指す社会～福祉とまちづくり～

悠久会がSDGsに取り組む理由は、福祉関係者のみで福祉課題だけに取り組むのではなく、社会課題と福祉課題の同時解決を行うために、福祉以外の方々とも積極的に協働するべきだと考えているからです。

その理由として、他分野の方々との協働することで幅広い解決策が生まれ、副次的効果として地域とのつながりも深まります。福祉と地域の垣根がない社会、それが悠久会が目指す世界でもあり、主要テーマである「福祉とまちづくり」の活動です。

我々が掲げるビジョン「あらゆる立場のすべての人々の心が通い合う社会」が実現できたならば、地域全体のウェルビーイングが向上し、心豊かなライフスタイルが実現することでしょう。



悠久会が目指す
心豊かな社会



社会福祉法人 悠久会

〒855-0041 長崎県島原市宮の町249-1

電話番号: 0957-62-2961

ウェブ: yukyukai.or.jp



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

社会福祉法人 悠久会は、
持続可能な開発目標「SDGs」を推進しています。